

教員養成の目標及び目標を達成するための計画（幼稚園 1 種課程）

本学の建学の理念は、「キリスト教精神に基づく国際人の育成」（学則第1条）である。キリスト教精神にもとづく教育実践の特徴は、一つは「他者の痛みを理解できる人間」の養成であり、もう一つは学園のモットーである「せん方尽くれども希望（のぞみ）を失わず」という、「困難な状況でも果敢にチャレンジする人間」の養成である。

本学幼稚園教諭の教職課程においては、建学の理念に基づき、子どもに対する深い愛情をもち、子ども・保護者の痛みに関心し、どのような状況においても柔軟に対応できるしなやかさと、教育実践における困難な状況の中でも、最後まで粘り強く課題に立ち向かうたくましさや備えた保育者、すなわち「しなやかでたくましい保育者」の育成をめざしている。「しなやかでたくましい保育者」は、子どもの育ちをめぐる環境の変化が激しく先行き不透明で厳しい情勢続く現代社会において、特に必要とされていると考えている。

子ども・保護者の痛みに関心し、状況に応じて柔軟に対応するためには、幅広い専門性と、精神面、健康面から子ども・保護者をサポートできる視野の広さを持つことが重要である。また、最後まで粘り強く課題に立ち向かうためには、自ら考え、課題を的確に理解し、他者と協働しながら、解決する方略を模索する力が必要とされる。

上記教員養成の目標の実現するために、本学の学びは3つの分野から構成されている。

第1は、「幼稚園教諭・保育士の資格関連科目」の学習である。教育者としての使命感、保育・教育の本質と制度の理解、幼児に関する理解、教科等の専門的知識と基礎技能など、幼児教育に関する基礎的・基本的な知識・技能とその活用力・実践力を、少人数教育を通じて身につける。

第2は、「幅広い専門科目・教養科目」の学習である。幼稚園教諭の教職課程のある保育専修は、健康福祉学群の一専修で、本学群には、他に、社会福祉専修、精神保健福祉専修、健康科学専修がある。障害のある人や高齢者に関する福祉、からだの健康やメンタルヘルスなど、隣接する専門領域の学問を幅広く学ぶことが可能である。また全学必修科目として設定されているコア科目「キリスト教入門」を通して本学の建学の精神を理解するとともに、日本語・英語の活用力や情報機器の活用力など、幅広いアカデミック・スキルの習得に力を入れている。

第3は、正課外活動であり、ボランティア活動や、学生の主体的な企画、運営を基本とした保育専修独自のプログラムが用意されている。他に、健康福祉学群全体の取り組みとして、学生の自主的な研究活動「学生研究会」がある。保育専修に所属する学生が関わる主な研究会として、保育方法研究会がある。これらの正課外活動を通して、企画力・構想力、リーダーシップやコミュニケーション能力、協調性や自己表現力など、さまざまな実践力の育成を図っている。